# 第514回大学院セミナー

（キャリアアップシリーズ：海外研究者、産学連携）

# アメリカでの研究生活：Harvard大学大学院から起業まで

演者　**西村 一郎先生**

UCLA歯学部ワイントロープ研究所教授

REMONOCE Pharm・共同設立者、理事


日時：2025年6月 19日（木）

18:00~19:00

会場：水道橋校舎本館13階 第2講義室

**学部学生の参加大歓迎！**

1981年東京歯科大学卒業後、歯科補綴学第三講座助手として故・関根弘先生のもと、義歯の見習い研修を始めた。そこで、歯槽堤が激しく吸収した患者さんの症例と格闘したことを米国臨床大学院アプリケーション小論文に書いたことから、Harvard大学歯学部ダグラス・アトウッド教授の研究室に留学することになった。アトウッド教授は歯槽堤吸収の世界的権威であり、抜歯による口腔破骨細胞の動態が生涯の研究課題になった。大学院終了後Harvard大学医学部解剖・細胞生物学ビヨン・オルソン研究室で分子生物学の手法を学び、歯学部に復帰して再び顎骨研究に戻った。

1997年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）に転職し、ワイントロープ研究所にラボを移してしばらくすると、これまで見たことのない重篤な抜歯後治癒不全の患者が急増した。これが薬剤関連顎骨壊死であったが、当時は原因・治療法は皆無の状態であった。ワイントロープ臨床チームは患者情報を集積し、基礎研究チームはまずは動物モデルを作ることから始まった。

今回、これまでの薬剤関連顎骨壊死研究を紹介し、さらに近年完成したビスフォスフォネート関連顎骨壊死治療法開発に至る経緯を紹介する。薬剤関連顎骨壊死は患者の絶対数が少ない、希少疾患と定義できるかもしれない。このため、既存の製薬関連企業は治療法開発に消極的にならざるを得ない。近年、UCLAをはじめ米国大学では学内研究を社会に発信する起業を盛んに奨励している。こういう環境のもと、薬剤関連顎骨壊死治療を臨床に届ける目的で、REMONOCE Pharmを起業するに至った。

共催：研究推進・産学連携支援部、ウェルビーイングプロジェクト